

平成24年1月30日

—研究所紹介—**放射線影響・医科学研究分野で世界を牽引する
国際研究教育拠点 原爆放射線医科学研究所**

我が国最大の大学附置研究所である原爆放射線医科学研究所（原医研）は、本年創立50周年を迎えます。

昭和36年の設置以来、原爆医療を基盤に放射線影響の基礎研究から医療開発研究に関する世界をリードする研究成果をあげています。

1. 緊急被ばく医療体制の確立と福島原子力災害への支援

世界は、チェルノブイリ原発事故や東海村臨界被ばく事故の経験に加え、核テロの脅威にも直面しており、世界保健機関（WHO）や国際原子力機関（IAEA）は、国際的な緊急被ばく医療体制の整備を進めています。

広島大学は、国際的な緊急被ばく医療ネットワークである IAEA の RANET および WHO の REMPAN に参加し国際的な活動も実施しています。原医研は、これらの活動の中核的役割を担い、研究活動の成果を社会に還元する活動にも取り組んでいます。

また、広島大学は「西日本ブロックの三次被ばく医療機関」として、平成16年度から、西日本の緊急被ばく医療体制の整備事業を文部科学省より受託し、実施しています。

この度の福島原発事故では、これらの経験を生かし、直後から三次被ばく医療機関として原医研と大学病院を中心とした「広島大学緊急被ばく医療派遣チーム」を現地に派遣し、その数は3月12日から現在までに37班、延べ1,197名にのぼります。福島では、状況に応じた様々な形の緊急被ばく医療の支援活動や住民の安全・安心のための諸活動を実施しています。

2. 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム**「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」**

平成23年度には、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム「放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム」が採択されました。本プログラムでは、関連部局と協力して、分野横断的な学際領域の「放射線災害復興学」を確立し、世界規模の放射線災害からの復興を担えるグローバルな人材の育成を目指します。

3. 全国共同利用・共同研究拠点事業

文部科学省は、我が国の学術の発展に資する実績と研究施設を有する研究所・センターを全国共同利用・共同研究拠点に認定し、当該学術分野の更なる発展に寄与させるための制度を設けました。

原医研は本制度の「放射線影響・医科学研究拠点」として認定され、これを受けて、平成22年度から、これまでに蓄積した学術資料や技術、および研究器機を学術コミュニティーの研究者などに幅広く公開し、共同利用・共同研究拠点としての研究活動を開始しています。

この度の福島第一原子力発電所事故による災害からの復興をオールジャパン体制で支援するべく、新たに「福島原発事故対応緊急プロジェクト」を設定し、共同利用・共同研究課題を全国から募り、平成24年度から共同研究を実施する準備を進めています。

4. 長崎大学との機関連携事業

広島大学と同じく被爆地にある長崎大学とともに、平成17年度からは「国際放射線被ばく者先進医療開発研究の機関連携事業」を、平成22年度からは「放射線災害医療の国際教育研究拠点確立に向けた機関連携事業」を展開し、広くアジア諸国などを含めた放射線障害予防や被ばく医療研究の国際拠点の確立を目指した連携事業を実施しています。

5. 21世紀 COE プログラム

「放射線災害医療開発の先端的研究教育拠点」

平成15年度には、21世紀 COE プログラム「放射線災害医療開発の先端的研究教育拠点」が採択され、本プログラムの実施により、原爆医療の実績の上にゲノム障害科学と再生医学の新しい学術基盤に立脚した、21世紀の放射線災害医療開発の世界拠点の基盤を確立しました。

この成果が評価され、平成16年3月に広島大学は我が国の緊急被ばく医療の拠点として文部科学省より「西日本ブロックの三次被ばく医療機関」に選定されました。

6. 創立50周年「記念国際シンポジウム」の開催

1日目は、「福島第一原子力発電所事故の復興支援に向けて—Support for Restoration from Fukushima Daiichi Nuclear Disaster」をテーマとして、ICRP・IAEAなどの国際機関や福島の研究者などをお招きし、緊急被ばく医療や放射線による発がんと疫学調査などについての講演・発表を予定しています。併せて、本研究所の現地福島での活動も報告する予定です。

2日目は、ポスターセッションで二つの事業の成果も発表します。

なお、本シンポジウムは、全国共同利用・共同研究拠点事業および広島大学・長崎大学連携研究事業の取り組みの一環でもあります。

■日 時：平成24年2月20日（月）

国際シンポジウム 13：00～16：10

創立50周年記念式典 16：30～17：20

平成24年2月21日（火）

ポスターセッション 10：50～11：30

■会 場：広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）

■主 催：原爆放射線医科学研究所（放射線影響・医科学研究拠点）

○今後も原医研は、「放射線影響・医科学研究拠点」としても先端的な放射線障害の研究を通じた医療開発や、安全研究を推進し、放射線領域の人材育成を進めて参ります。同時に、その成果を原爆被爆者や福島の原発事故被災で苦しむ住民、および世界の被ばく者の医療や安全に役立てていきたいと考えています。

【お問い合わせ先】

医歯薬学総合研究科等支援室 原爆放射線医科学研究所分室
TEL:082-257-5802、FAX:082-255-8339

全国共同利用・共同研究拠点事業
広島大学・長崎大学連携研究事業

広島大学原爆放射線医科学研究所 創立50周年記念国際シンポジウム

福島第一原子力発電所事故の復興支援に向けて

International Symposium
50th Anniversary of RIRBM, Hiroshima University

Support for Restoration from Fukushima Daiichi Nuclear Disaster

2012年2月20日(月)～21日(火)
広島国際会議場(広島市中区中島町1番5号)

Feb 20 Mon

session 1

Jacques Lochard (ICRP, France)

Vladimir Kutkov (Incident and Emergency Centre, IAEA, Austria)

Zhanat Carr (World Health Organization, Switzerland)

Kenji Kamiya (RIRBM, Hiroshima University, Japan)

session 2

Seiji Yasumura (Fukushima Medical University, Japan)

Toshiteru Okubo (Radiation Effects Research Foundation, Japan)

Lydia B Zablotska (UCSF, U.S.A)

Toshiya Inaba (RIRBM, Hiroshima University, Japan)

Feb 21 Tue

session 3

Poster Session

主催 広島大学 原爆放射線医科学研究所(放射線影響・医科学研究拠点)

共催 文部科学省博士課程教育リーディングプログラム平成23年度採択事業
放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム

後援 放射線被曝者医療国際協力推進協議会(HICARE)

Research Institute for Radiation Biology and Medicine (RIRBM)

1-2-3,Kasumi,Minami-ku,Hiroshima 734-8553,Japan

Tel : +81-(0)82-257-5802 Fax : +81-(0)82-255-8339

<http://www.rbm.hiroshima-u.ac.jp/>